

令和5年度 第1回 御代田町総合教育会議 会議録

招 集 年 月 日	令和5年10月24日（火）	
招 集 場 所	御代田町役場 庁議室	
開 閉 会 時 の 日 時	開 会	令和5年10月24日（火）午後1時27分
	閉 会	令和5年10月24日（火）午後2時38分

意見交換

- (1) 部活動の地域移行について
(2) 小中一貫校について

出席者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
御 代 田 町 長	小 園 拓 志	教 育 委 員	市 川 和 明
教 育 長	茂 木 伸 一	教 育 委 員	荻 原 道 子
教 育 長 職 務 代 理	山 口 智 之	教 育 委 員	柳 井 陽 奈

説明のため出席した者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
教 育 次 長	阿 部 晃 彦	生 涯 学 習 係 長	小 山 ゆ う 子
教育次長補佐兼図書館 係長兼博物館係長	茂 木 仁	社 会 体 育 係 長	清 水 優
図 書 館 係 長	内 堀 博 江	学 校 教 育 係 長	荻 原 拓 哉
学 校 給 食 係 長	手 塚 弥 生		

職務のため出席した者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名
総 務 課 長	荻 原 春 樹	総 務 課 長 補 佐 兼 庶 務 係 長	木 村 公 正
書 記	土 屋 高 志		

傍聴人

5 人

第1回 御代田町総合教育会議 会議録

1. 開会

荻原総務課長

開会あいさつ

2. あいさつ

小園町長

教育委員の皆さまには、ご多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

総務課主管となり、正常化してできたのはよかったと思います。今後の教育行政が町の中心であり、今まで以上に活発に議論をしていただけたらと思います。

今回の議題は、部活動の地域移行の件です。引き続き意見交換をお願いいたします。また、小中一貫校に関し説明があるかと思いますが、そちらにつきましてもよろしくお願いいたします。

茂木教育長

町長部局主管での開催となり、教育委員会と協議しながら本会議のよい環境を大切にしていきたいと考えています。本日は2件の議題を意見交換することとなりますが、小中「一貫教育」として理解していただけたらと思います。学校は数十年後には建て替えという時期を迎えることになり、小中一貫教育が課題になることとなりますので、早急な問題でなく中長期的に捉えていただき理解を深めていっていただきたいと思います。

荻原総務課長

(総務課総合教育会議を所管する庶務系の職員の紹介)

3. 意見交換

(1) 部活動の地域移行について

荻原総務課長

本日は、1つ目の議題として「部活動の地域移行について」を議題として意見交換を行います。はじめに教育委員会事務局から説明いたします。

清水係長

資料に沿って、説明。

荻原総務課長

係からの説明を踏まえて、皆さまのご意見や質問をお聞かせください。

山口職務代理

責任の所在については休日・スポーツ文化活動協力隊が担っ

	ていると理解してよろしいでしょうか。 はい、今のところはそうに考えています。
清水係長	
茂木教育長	最初の説明について少し補足します。御代田町では、関係する団体と教育委員会が連携し働きかけながら、御代田町休日・スポーツ文化活動を行う協力隊を組織しようと発足する段階までできています。 これまでは、外部指導者への謝礼の支払いもお礼程度であり少額で十分ではありませんでしたが、土日に担当してもらい謝礼を手当するようにして予算化もいたしました。これは他に先駆けて実施しているところでもあります。令和6年度からは正式に発足し1つの部活で3、4人の確保ができればと考えています。また、学校の先生でも土日やりたいという教員もいると思いますので、働き方改革を進めているところもありますので無理のない範囲で休日・スポーツ文化活動協力隊に登録できるようにしてもらえればと考えています。その場合はその人数ももう少し増えてくるのではないかと考えています。
柳井委員	(移行計画の資料では) R5 では女子バスケと柔道部で部活指導員も部活動外部指導者もないが、なぜか。
清水係長	空白の個所は、顧問として先生が指導しています。
柳井委員	令和7年度から地域クラブへ移行となった場合の、部活との兼ね合いはどのようになるのですか。
清水係長	地域クラブとして中体連への大会参加も認められており、大会の参加は可能と考えます。平日も地域クラブへの移行する流れもありますが、まずは土日と併用して実施していくこととなります。例えば男子バスケット部が地域クラブに移行した場合は、部活動としての男子バスケット部はなくなります。
萩原委員	部活指導員と部活動外部指導員はどのような違いがあるのでしょうか。
萩原係長	部活指導員は国・県の補助事業として任用しており、原則単独指導、単独引率となります。部活動外部指導者は休日にお手伝いする外部コーチであり、補助事業でなく町の支出にて国県と同じ単価を用いて指導しています。また、部活動外部指導者は単独では大会などの文科省ルールにより引率はできないこととなっています。

荻原委員 子どもたちへの移行についての説明は行っているのでしょうか。

清水係長 学校を通じ先生から説明がされております。

市川委員 1年前に方針が示されて、1年たって予想以上に進んでいると感じました。ここまで体制をつくり、心配だった人と金の問題について調整していただきありがたいと思います。平日の部活動の開始時間や何かあった時のケアなど先生がどのようにかわっていくのがいいのか考えるところがあります。

総務課長 御代田町も他と比べ進んでいるがさらに取り組みが必要なのかなか思います。一層の努力をしていきます。

山口職務代理 御代田町の活動に対する取り組みは大変良いと思います。国の方針としては改革集中期間としてたが推進期間にかわりましたが、町は着々と進んでおり頼もしいと感じますが、課題はまだまだあると思っています。

指導者の指導方針に理解を示すことや体罰などの管理責任は誰になるのかなど、対応できる人や全体を見る人が必要であると思います。また、平日の指導者は御代田町にいるのか心配であります。指導者が研修を受けられるシステムの準備も必要です。

総務課長 課題はこれから進めるにあたり出てくるとも思いますが、一つずつ解決していければと考えています。

市川委員 中体連の壮行会についてもクラブ単位で壇上に上がり応援したということがあり、ありがたいことだなと思いました。

教育長 保護者の皆様に対する説明についてはこれからしっかり進めていかなくはいけないと思っております。

(小中一貫校について説明)

荻原委員 子どもたちにはどのようなメリットがあるのかお聞かせください。

教育長 中1ギャップといわれる不安がないということがあります。
市川美委員 中学1年となって中学に行くときに負担がなく上の学校に行く

市川美委員

ことができることとなります。課題としては、発達したことの
実感が少ないことや意識の醸成がしにくいといったこともあります。

茂木教育長

おそらく1ヶ月で1年生から9年生までになると、こんなてなさそうかなっていうのでまたお考えいただくんですが、それも既に取り組んでいる学校さんもたくさんありますから良さと課題がかなり洗い出されています。私達が把握している範囲ではやっぱり一番いいのは、中学校へ行くときにいわゆる中1ギャップとか、と言われることはかなり少なくなる、要するに子供たちにとってスタッフなく、いわゆる上の学年に向けたりするということは、その結果、例えば登校傾向の差が少なくなるとかですね、そういった成果は出ているようであります。

課題としましては、やっぱりこう繋がってきますもんですから、本当に発達段階でそれぞれ成長したなっていうようなことがどれだけ実感できるかな、本当に私は中学生になったんだとか、また気持ちを入れ替えて、やってくぞというようなことが別にそこはそれ必ず起こりますよね。

市川美委員

そういったことについては、多分、一家でしょっちゅう行った方の学校だと、そういったことはなかなかそういった意識は調整していくのかなっていうか、課題も出てきており、多分たくさんありますよね。そうですね。ぜひ、いいえ。

茂木教育長

はい。これもメリットは確かにたくさんあるので、ぜひその方向で進めていただければ嬉しいなと思って思います生徒指導面でも評価しろ面でもメリットいっぱいあると思います。ただ、本当にさ、先の話だと思うんですが、御代田町の子供たちにとって、どうすることが望ましいのかなっていう現状はとても素晴らしい。

中山委員

学習調査を見ると、中学校英語、特定の見える良い成果を今、たくさん残している。ここに至るにはそれなりの先

生方の力や運営委員会の考え方とか、いろいろあつての結果なので、それを踏まえた上で、どういう形にしてい
くのがいいのかな。

もしかしたらもう今現在だってもう小中連携は頻繁にや
っていますし、そういうのをまとめたもう 1 回教育に近
づいているので気がしますので、形にそんなにとらわれ
たっていう今やってることをやっていけばいいのかなそ
れぞれに良い良い計画が成果を残しているという。

古越教育次長補佐

そう考えるとところもありますもしやるとしたら、佐久穂
小・中学校みたいな形ですかね。併設。でも女の子は同
じですけども、焼酎があつて、でもここは多分同じ規模
ぐらいなんだけど、いずれ校舎も新しいものになるって
のは、本当に思い切ったことができるかなと勝手に夢を
膨らませました考えたときに、何か二つの小学校とあつ
て使うもうどっちが 2 本立って、あるいは中学校の 2 本
立てて生活することもできるように、さっき言ったこと
を皆さんなっちゃいます。

中山委員

3 番の方がちょっとイメージしました。ただとてもいい
と思うので進めていただきたいんですが、小中一貫を考
えた場合は、ショート、中 1 ギャップを考えると、消費
税 100 分もありますので、幼保小中一貫教育みたいに、
亮太町が 12 年間体制でこれももう既にやってることだ
と思います。

荻原総務課長

小園町長

そうやってやればもっとすごいなって。12 年間追いか
けたら面白いなと思いました。考えるといろいろあつた
んですけど以上です。いいでしょうか？はい、お願い
します。既に町内に近い将来的に今観光が別のないこと
はないと思いますちょっとそれは私も網谷魂っていうの
は、小さい意外と広範囲ポイントっていうか、数学方面
行ってないかなとすいませんまとめちゃうふう言って、
わかりました。

はい。なんていうんですかね。こちら、わざわざ個別な
らないという形だとは思いうんですけれども、今後こうい

った最初っていうところもですね、入れた中で、なければというちょっといいですかはい、すいません。朝所長の考えというか、今現段階ですよ、ここではないができるかという決めてございませんで、夢膨らませたり、家庭も出てくるということで、ぜひ少しずつ出し合っていくかと思いますが、今ちょっと冊封小・中学校のお話がありましたが、私先ほど教育が学校の中で札幌招致のまだ出しませんでしたあれば、同じ敷地の中で校舎の廊下で繋がってるんですけども、酒向さんは佐久穂小学校と札幌中学校という別々の学校できちんと立てて、ですから小学校には校長先生教頭先生おられますし、中学校には中学校で教頭先生交渉する予定です。

それはやはり町の方針なんですね。現実主義者といいますと、一つの本しちゃうと、校長先生はお1人という形と思いますが、二つを確認すれば、校長先生と2人で個人的なパワーで言えば、うちが有利な働き方になるでも中身はやっぱり正直学校的なことももちろんお取り組みになってるわけです。

そういう意味で分類上は実はそうなってるというそのサービスのデータで取り入れることがあるかもしれませんが、いずれにしろ、一貫した教育をしていくっていう点では大事だと思いますので取り組みを使って、現実的に校舎をどうするかですね、学校どうするかということはまたまたこれから少しずつ理解を深めてお願いします。

ちょっと考えます。私はちょっと今のところこれに関する考えは定まってないというのが正直なところでして、現在ですね酒これは焼酎だけじゃなくて、幼稚園保育園と小学校の連携ということも含めてですね、考えているその繋がりの中で、小1ギャップと言われるものの中1ギャップっていうものをどう解消していくかっていうことは、実はこの小中にとどまらないところがあるのかなというふうに思ってます、それは例えば、保育園幼稚園後からその心理士に入ってもらおうとかそういうことですね今までやってきたのは、一つの流れのものだよっ

てことを認識してもらい、また、なんていうかそこでギャップが生じないようにという取り組みの一環だったと思うんですよね。

だから今のところは、その個別の対応の中で、何て言うか、学校が変わる幼稚園保育園から小学校に代わる小学校がちゅう中学校に変わるっていうその落差をできるだけ少なくするってことに努めてきたわけでありまして、それは私ならしてもらって4年半の中で結構変わってきてるんじゃないかなという気がしております。

これが小中連携とか小中一貫連携はしているとして、小中一貫という形まで支援かどうかっていうことは、かなりまた議論が必要かなというふうには思っています。現実に関わりの数がお子さんの数がこれだけで、学校が三つというのも決して多い方ではないのかなと。

他の地域だと、もっと人数少なくてもっと学校の多いケースもありますけれども、水町の場合はそこまでいってませんので、ある種の独立を保ちながら保ちながらやっていくっていうのも一つのやり方だなというふうに思っています。

なので、今回このように説明いただきましたが、もう言うとか中高一貫でやりますというふうな話になってるかという、まだまだそうじゃなくてむしろずっとそうしないかもしれない。ということも含めてですねこれから考えていく必要があるだろうなと思っております。

引き続きご議論いただければはい。ありがとうございます。時間をかけていただければいいのかなと思うんですけれども、あと@残念ではございますが、そこで皆さん、教育会議の方は、終わりますつまらない近い大変申し訳ありません。

ありがとうございますお疲れ様でした。以上で大丈夫とさせていただきます。お疲れ様でした。

小園町長

皆さまよりいただいたご意見に対する感想を述べさせていただきます。まず、カーリングについては、全国的にも当町の特徴として位置づけられるものです。しかし、当町のカーリングについては、カーリングホールをどのように維持していくのか、そしてどのように建て替えるのかなど様々な課題があります。カナダのカーリングホールのようにビアパブを併設して、お酒を飲みながらカーリングを観戦できる施設ができれば素晴らしいのですが、既存の日本の文化にどのように溶け込ませるのかや、資金集めをどのようにするかなど課題となります。

町の支援のあり方については、部活とスポーツ少年団を区別する必要はないと思います。指導者の確保も含めてスポーツ活動全体をどう支援していくかという観点で検討していきます。

市川和明委員からもご意見をいただきましたが、私も指導者を平日と休日で分けることのイメージが湧いていません。ただ教育長の方針を聞いて私が納得したのは、「教員の働き方改革ありきで議論を進めていくだけでは理解が得にくく、地域移行によって良くなったという実感を持ってもらうことが大切である」ということです。今後は、部活動の指導をする教員と地域の方の指導の併用になりますので、その点により注力して研究をしていく必要があります。部活動指導をやりたい教員の方とやりたくない方、双方の意向を尊重していくことが大切だと思います。

日本型の教員が全てを丸抱えにするやり方は、町役場の業務に似ていると感じています。国や県からの情報がある程度、役場に届いていますので、役場に聞けば大概のことがわかる状況になっています。これは世界的に見ても特殊で、アメリカ州では行政サービスを提供する機関が30～40もあり、そのなかから自分で探して問い合わせをしなければなりません。この役場が丸抱えするスタイルも小さな自治体から変わっていくのだと思います。具体的には郵便局やコンビニへ一部の業務を移管するようになるのではないのでしょうか。丸抱え行政も丸抱え教育もこれから変わるなかで、行政や教員のやる気が足りないように見られないよう、住民の方へしっかりとした説明をしなければいけません。

本日は皆さまより貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございました。

4. 閉会